

予防技術資格者の育成について

函館市消防本部



受検区分：「防火査察」

所属名 指導課指導係

階級 消防士長

氏名 荒木 彰 浩

感想文

私は、令和2年4月から指導課指導係で勤務していますが、このたび、予防技術検定を受検させていただく機会を得たため、知識・技術の更なる向上と、予防技術資格者として認定されるよう、積極的に勉強に励みました。

防火査察は、習得すべき事項が多岐にわたるため、業務で触れる機会が少ない部分について、理解を深めることよりも、多くの問題をこなすという勉強をしていましたが、自身の勉強方法に疑問を抱いていたところ、消防防災科学センターが主催する予防技術検定受検準備講習会が当市で開催されることになり、受講させていただきました。

講習会では、よく出題される点を中心に解説され、講師の経験からの話も聞くことができ、問題を解くということに限らず、予防業務への理解が深まりました。

受講後は講習の内容から理解する要領を得ることができ、ただ問題数をこなすという勉強方法をやめ、講師による説明のポイントを参考にして、少し時間をかけてでも問題を理解することに重点を置きました。

結果的に、自信をもって検定に臨むことができ、合格することができました。これは講習会を受講したことによる意識改革のおかげだと思っております。

今後も、この講習会で得た理解の大切さを忘れることなく、業務に取り組んでいきたいと思っております。



受検区分：「防火査察」

所属名 東消防署指揮係

階 級 消防士長

氏 名 西 川 純 平

感想文

今回の受検が初めてということで、当本部の今までの合格者の方々にアドバイスを受けて、テキストを借用して勉強していましたが、理解できない部分も多くあったため、上司の勧めもあり、一般財団法人消防防災科学センター発行のテキストの購入と同センター主催の受検準備講習会を受講させていただきました。

講師のポイントを押さえた講義内容と最近の試験の傾向と対策を教えていただき、大変有意義な講習であったと感じるとともに、今後の勉強方針をより具体的に決定することができました。そのおかげもあり、自信を持って受検することができ、無事に合格することができました。

結びに、今後受検される方々の中にもテキストのみで勉強される方もいらっしゃるかと思いますが、もし理解できないことがあったり、独学での限界を感じたならば、講習会を受講することで、より理解を深めたり、今後の勉強方針を決定することができると思いますので、講習会が開催されるならばぜひ受講することをお勧めします。



受検区分：「防火査察」

所属名 北消防署

亀田本町支署警備係

階 級 消防士

氏 名 本 間 駿太郎

感想文

予防技術検定を受検するにあたって、諸先輩方からの助言や資料を活用して問題集を反復して解いていく学習を進めていましたが、同じ問題集だけでは出題範囲を網羅できていないのではないかという不安があり、検定科目の出題範囲を地道に覚える学習に切り替えました。学習方法で行き詰まっているなか、予防技術検定受検準備講習会の開催を知り、受講させていただきました。

講習会では、学習テキストの内容を講師の方が詳しく解説する流れで進行され、質問にも丁寧に回答し

ていただき、非常に有意義な講習でありました。また、テキストは要点となる部分が的確に捉えられており、受講後には以前より効率的に学習を進められました。自信を持って検定当日を迎えられ、無事に合格することができました。知識だけでなく学習方法も確立することができ、今後受検する方にお勧めしたい講習でした。

最後に、今回の受検で習得した知識を今後の予防業務に活かし、さらなる知識の向上にも努めていきます。合格に向けての手厚いサポートありがとうございました。

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部

当消防本部は、茨城県南西部に位置し、全域が首都50km圏にあり、北は下妻市、西は坂東市、東はつくば市、南は利根川を挟んで千葉県に面しており、総面積約200K㎡、人口約16万人の3市（常総市（旧水海道市）、守谷市、つくばみらい市）にて構成されております。

現在は、秋葉原、つくば市を結ぶつくばエクスプレスの開通により当管内にも守谷駅、みらい平駅が存在し、沿線開発も進み、人口及び消防需要も増加の一途を辿っております。

当消防本部では、ここ数年多くのベテラン職員が退職していく中、大型施設の建設が年々増加しており、予防技術資格者の確保が急務となっております。

昨年、実施しました令和2年度予防技術検定試験合格者の感想をいくつか紹介します。



受検区分：「消防用設備等」

所属名 守谷消防署

階級 消防士長

氏名 鈴木 慶太郎

感想文

私は、近年高層・複雑化する防火対象物に対して高度化・専門化する予防業務について消防本部内で一翼を担えるよう今回予防技術検定「消防用設備等」を受検しました。

受検に対する学習方法は、当初市販されている参考書、問題集を用いて行ってましたが難解で専門的な用語が多く効率的とは言えませんでした。そこで、消防防災科学センターが発行している予防技術検定学習テキスト（消防用設備等編）を用いた学習をすることで専門的な設備、建築基準法等に対する教養が深まり効率的に学習することが出来今回の合格という結果に繋がりました。

最後に、今回の受検で得た消防用設備等に対する基本的な知識を日頃の予防業務に活かし実務を積むことで更に教養を深めていきたいと思っております。



受検区分：「危険物」

所属名 守谷消防署

階 級 消防士長

氏 名 宮 田 兼 太

感想文

この度、私は予防技術検定「危険物」を受検しました。受検科目に危険物を選んだ理由は、日々の業務にあたる中で、消防吏員が危険物に携わる場面が多く存在すると感じたからです。

例えば、立入検査では、様々な事業所に対し適正な指導をしていく上で、危険物や消防活動阻害物質等の貯蔵・取扱いに関する知識が必要不可欠です。また、危険物火災が発生した場合は、正しい消火方法や、危険性を理解していないと大事故に繋がります。私は、予防技術検定に向けての勉強は、今後の消防人生に大きく活かされると思い、受検を決意しました。

私の受検対策は、まず（一財）消防防災科学センターから出版されている学習テキストを基に、徹底的に基本を学びました。学習テキストは、危険物の知識が浅い私でも理解しやすく、受検対策のテキストとしては素晴らしい内容でした。さらに、甲種危険物取扱者試験問題集を利用して、過去問を数多く問いていくことで自信となり、無事合格することができました。

若手職員の育成が急務となる現状で、私は後輩たちに予防技術検定の重要性を伝え、正しい知識を持ち、努力のできる人間になってもらいたいです。そして、より多くの受検者が現れることを望みます。



受検区分：「防火査察」

所属名 水海道消防署

北出張所

階 級 消防士長

氏 名 小 野 隼 人

感想文

今回、防火査察を受検しましたが、受検の動機は、高度化・専門化する予防業務を的確に行うため、知識及び技術を有する必要があると考えたからです。

学習方法は、市販されている問題集を半年前から1日2時間繰り返し解く。その後、予防技術検定の事前研修で購入したテキストを活用し、問題集の解説のみではわかりづらかった箇所を補足する、という方法でした。

実際の予防技術検定は、問題は難しく、問題集のみでは対応しきれていないと感じました。しかし、テキストを併用したことにより、無事合格することができました。

今回の予防技術検定で学習したことにより身に付いた知識を忘れることがないように、これからも勉強を継続し、また、今後の予防業務を通じて知識のみではなく、技術・経験を向上させ、活かしていきたいと思えます。



受検区分：「防火査察」

所属名 守谷消防署

南守谷出張所

階級 消防士

氏名 飯島 啓介

感想文

我々、消防職員は定期的に立入検査を実施していますが、私は知識が曖昧なまま立入検査を実施していました。しかし、このままの知識では、適切な指導も出来ず火災予防に繋がらないのではないかと自問自答した結果、予防技術検定「防火査察」を受検しようと決めました。

予防技術検定勉強に関しましては、予防技術検定学習テキストを熟読し、一般財団法人消防防災科学センターの講師による講義で重点箇所を教えて頂き、それを基に何度も問題を解き続けた結果、無事に合格することが出来ました。

今後は、予防技術検定で得た知識を更に深め、「消防用設備等」「危険物」にも合格出来るように勉強をしていきたいです。



受検区分：「消防用設備等」

所属名 つくばみらい消防署

谷和原出張所

階級 消防副士長

氏名 坂野 翔也

感想文

私のテスト対策は、主に予防技術検定学習テキスト（共通科目編・消防設備等編）で学習し、市販の問題集も数多く解いていくといった方法です。テキストを熟読し、ポイントとなる箇所を重点的にまとめることで、非常に効率的に試験当日まで学習することができたと思えます。検定の問題は難しく感じました

が、無事に合格することができ、自信にも繋がりました。

今回、予防技術検定で得た知識や学習方法を慢心することなく絶えず継続していきたいと思います。そして日々、高度化する予防業務に活かしていきたいと思います。



受検区分：「防火査察」

所属名 つくばみらい消防署谷和原出張所

階 級 消防士

氏 名 坂 卷 雄 大

感想文

今回予防技術検定を実施し、率直な感想として受検してよかったなと感じています。予防業務は消防業務の中でも比較的市民や他の業者との関わる場面が多々ある為、必要な知識や、経験を積む必要があると感じています。

勉強方法については、ネットのブログ等も参考にしましたが、理解しにくい内容については、学習テキストを何度も読み返し基本を熟読した成果が合格に繋がったと思います。

これからの予防業務に関しては、実際の現場経験が必要不可欠であり、今回の技術検定で学んだ知識を活かしながら現場経験を重ね日々精進していきたいと思います。

佐倉市八街市酒々井町消防組合



受検区分：「危険物」「防火査察」

所属名 消防本部予防課

階 級 消防司令

氏 名 大 沼 正 徳

感想文

当消防本部は、消防力の整備指針第32条第3項の規定により消防本部、消防署に予防技術資格者を一人以上配置することとされていることから、予防技術資格者の人員確保のため毎年計画的かつ積極的に受検に取り組んでいます。

平成30年度を受検時には、当消防本部公費受検者の合格率が低迷しました。

私は、消防本部予防課で予防技術検定担当事務をしているため、何か合格率が向上する方法が無いか試行錯誤していると、一般財団法人消防防災科学センターにおいて予防技術検定準備講習会を全国9ブロックで開催されることを知りました。

令和元年度以降の受検対策として、一般財団法人消防防災科学センター講師にご相談させて頂いたところ、当消防本部に講師が出張講習をして下さるとの心温まるご回答を頂きました。近隣の消防本部にもお声掛けし、令和元年度、令和2年度と予防技術検定事前講習会（防火査察科目）を開催することが出来ました。

講習内容は、予防技術検定学習テキストをもとに法令解説や立入検査の着眼点などとても解りやすく、また、学習するポイントなど大変参考になり一緒に受講した職員からも有意義な講習会であったとの感想が届いております。

講習で学んだこと、テキストや問題集を繰り返し学習することにより令和元年度に危険物科目、令和2年度に防火査察科目を合格することができました。

これからも、積極的に勉強し知識を養い検査等の実務等に活かせるように自己研鑽していきます。



受検区分：「防火査察」

所属名 消防本部予防課

階 級 消防士長

氏 名 海老根 郁 美

感想文

自身の予防業務に関する知識の向上を図るために今回予防技術検定を受検しました。科目は防火査察を選択し、テキストと問題集を解いて予防技術検定に臨みました。テキストはわかりやすくまとまっておりましたが、自分で読むだけでは内容を理解しきれていないところもあり、講師に法令等を解説していただくことによって理解することができました。

受験対策としては、問題集を繰り返し行い試験問題に慣れるようにしました。試験問題はあてはまらないものを選択しなさいという問題が多く出題されており、講師も回答を選択するときに注意するようにアドバイスをしていただいたので、問題集を解く時によく問題と選択肢、回答及び解説を読み込むことを心がけました。

今回この講習を受講したことによって合格することができ、合格できたことによって今後の予防業務に対する自信にも繋がりました。これからも絶えず勉強を継続して予防業務に活かしていきたいです。

筑紫野太宰府消防組合消防本部



受検区分：「防火査察」

所属名 太宰府消防署

警備第2課警備第1係

階級 消防士

氏名 松坂 篤史

予防技術検定受検準備講習会を受講して

私は消防吏員に拝命され三年目で、現在は予防業務に従事しています。これまで各種届出の処理や査察等で、自分自身の知識不足を痛感することがありました。

当消防本部では、拝命三年未満の職員を対象に、予防の基礎知識の習得を目的とした研修が実施されています。しかし、研修の知識のみでは予防業務には対応することが出来ませんでした。

そこで私は、自身のスキルアップの為に、予防技術検定の受検を決意しました。消防防災科学センター主催の準備講習会は、検定合格に向け、的を絞った講習でした。特に違反処理について理解に苦慮していましたが、講習を通し、違反の発見から公示までの流れを理解することが出来ました。また、講習で配布された資料は、予防技術検定のみならず、通常の予防業務でも活用出来る程に内容のまとめられたものでした。

今後は、予防技術検定で得た知識を活かし、違反是正指導や適正な各種届出処理等、予防業務を適正に行っていきたいと思えます。



受検区分：「防火査察」

所属名 太宰府消防署

警備第3課警備第1係

階級 消防副士長

氏名 森 晶博

予防技術検定受検準備講習会を受講して

今回、査察での指導や後輩に対する教育を行う上で、適正な指導が出来るか不安があり、予防の知識を高めたいという思いから、予防技術検定の防火査察を受検しました。

受検するにあたり、当消防本部において、消防防災科学センター主催の受検準備講習会があると聞き、受講しました。

講習会では、センターから派遣された講師により、予防の基礎から違反処理の流れまで、事例を交えた説明があり、とても分かりやすく有意義な時間でした。

当消防本部では消防法第5条の3の措置命令の査察研究会を実施しており、消防吏員が命令書を交付し、違反処理までのシミュレーション訓練を実施しています。予防技術検定を通して違反処理について詳しく理解することが出来たので、違反を覚知した場合は適正に是正指導を行い、新宿歌舞伎町ビル火災のような悲劇を二度と起こさないように、これからも予防業務に精進していきたいと感じます。



受検区分：「消防用設備等」

所属名 筑紫野消防署

警備第1課警備第1係

階級 消防士

氏名 川崎 滉太郎

予防技術検定受検準備講習会を受講して

私は平成二十九年度に採用され、その翌年から予防に携わる部署に配属されました。採用三年目で予防技術検定「防火査察」を合格し、今回は「消防用設備」を受検しました。

今回の受検では、合格率の低い科目ということもあり、一問一問を確実に理解しながら解くように心掛けました。その中で、実務経験で得た知識はもとより、本部内の査察体制の充実化を目的とした各種研修の機会を積極的に活用しました。しかし、それだけでは不安が残る部分もあり、消防防災科学センター主催の準備講習会を受講することにしました。

講習では、試験に合格するために抑えておきたい項目や独自の学習では見逃していた部分なども知ることができ、合格への大きなきっかけとなりました。

次回は、「危険物」の科目に挑戦したいと考えていますが、実務経験が少ないため理解しづらい部分もあると思います。今後も当消防本部が主催する予防技術資格者研修やOJT研修等に積極的に参加することで知識を身につけ、試験に合格し、予防技術資格者として予防業務に励みたいと思います。